

会 議 録

会議の名称	平成26年度第1回行田市地域公共交通会議
開催日時	平成26年7月18日(金) 開会；午前10時 閉会；午前11時15分
開催場所	行田市役所3階305会議室
出席者(委員) 委員名	高橋直樹委員(代理：小熊氏)、鈴木貴大委員、長島豊委員、 新井忠晴委員(代理：横畑氏)、鶴岡洋委員(代理：金川氏)、 川上和男委員、内田愛三郎委員、田島幸夫委員、 木部康久委員(代理：六所氏)、橘井公治委員、 石合龍也委員(代理：小林氏)、小倉輝男委員、 田尻要委員、小林修建設部長、小林乙三環境経済部長、 風間祥一市民生活部長
欠席者(委員) 委員名	土橋義男副市長、高原昭委員、山田貴志委員、 井澤清典総合政策部長、竹井英修健康福祉部長
事務局	地域づくり支援課：門倉課長、新井主幹、角田主任
会議内容	(1) 武蔵水路改築事業に伴う市内循環バス経路の通行止めによる迂回及び停留所の移設について【協議事項】 (2) 行田市次期地域公共交通実証実験(乗り合いタクシー)について【報告事項】
会議資料	○平成26年度第1回行田市地域公共交通会議次第 ○平成26年度第1回行田市地域公共交通会議座席表 ○改築工事に伴う迂回及び停留所の移設について【資料1】 ○その他の橋梁の工事について【参考資料】 ○行田市次期地域公共交通実証実験(乗り合いタクシー)について
その他必要事項	傍聴人 なし

発 言 者	会議の経過（議題・発言内容・結論等）
司 会	1 開 会
会長職務代理 (市民生活部長)	2 会長あいさつ
議 長 (市民生活部長)	3 議 事 議事に入らせていただく。 はじめに議事の（１）協議事項「武蔵水路改築事業に伴う市内循環バス経路の通行止めによる迂回及び停留所の移設について」事務局より説明をお願いします。
事務局	< 「資料１」及び「参考資料」に基づき説明 >
議 長	事務局からの説明に対し、質問や意見があればお願いします。
木部委員 (代理：六所氏)	北西循環コースの迂回についてであるが、「老人福祉センター」停留所で折り返すときに、敷地内でバスの回転は可能か。
事務局	老人福祉センターの駐車場で回転が可能である。
議 長	行田警察署交通課として、何か問題点はあるか。
石合委員 (代理：小林氏)	特に問題ない。
議 長	他に質問等はあるか。なければこの件について承認とする。 （１）協議事項「武蔵水路改築事業に伴う市内循環バス経路の通行止めによる迂回及び停留所の移設について」 < 承 認 >

議 長	次に議事の（２）報告事項「行田市次期地域公共交通実証実験（乗り合いタクシー）について」事務局より説明をお願いします。
事務局	< 資料「行田市次期地域公共交通実証実験（乗り合いタクシー）について」に基づき説明 >
議 長	事務局からの説明に対し、質問や意見があればお願いします。
橋井委員	乗り合いタクシーは、今後推進していく予定なのか。
事務局	現在の市内循環バスの運行形態が、平成２７年度末までとなっていることから、平成２６年度末頃までに、一定の方向性を出したいと考えている。 現在、循環バスの各停留所の乗降人数調査を行っている。 また、今後、庁内関係部署での検討、事業者との調整などを予定している。 これらを踏まえ、地域公共交通会議で検討する予定であり、乗り合いタクシーを現時点で即導入するという考えはない。
議 長	他に何かあるか。
田島委員	車椅子を使っている人の利用はあったか。
事務局	車椅子を使用している方の利用があったが、その際は、折りたたみ式の車椅子であったため、トランクに入れて対応した。
鈴木委員	何回あったのか。
事務局	事業者より車椅子の方の利用があった旨の報告は受けているが、回数は把握していない。

議 長	他に何かあるか。
鈴木委員	期間中、乗り合いタクシーを145名が延べ1266回利用したとのことであるが、一人が10回くらい利用したということか。
事務局	複数回利用した方も多数おり、多い方では、40回程度利用した方もいる。
鈴木委員	乗り合いタクシーの実証実験を担った昭和タクシーでは、通常のタクシー収益に影響は出たか。
新井委員 (代理：横畑氏)	通常のタクシーと乗り合いタクシーは、それぞれ別の場所で受付を行っていた。決算額のみでは収益上の影響は分からない。
議 長	他に何かあるか。
橋井委員	報告の中で、「2台で不足しなかったが、3台必要に感じた」との意見があったようであるが、2台で不足しなければ3台必要ないと思うがどうか。 また、乗車と降車の利用回数が異なるのはなぜか。
事務局	ドライバーとオペレーターにアンケートを実施した結果をまとめたものであるが、「不足することがあった」との回答が67%、「3台必要に感じた」との回答が67%であった。ご指摘のとおり表現が適切ではなかった。 乗車と降車の利用回数の違いについては、帰る時間が読めないため、行きだけ利用したケースがあったためである。
議 長	他に何かあるか。

鈴木委員	調査研究業務を受託したものづくり大学の田尻委員に伺うが、2ヶ月間で61日、2台で運行、1266回の利用ということは、割り返すと1日当たり1台10人程度の利用があったということか。
田尻委員	そのとおりである。
鈴木委員	1日1台10人程度で、乗り合い率が1.25人ということは、1日1台あたり8回程度の出動があったということか。
新井委員 (代理：横畑氏)	日によって回数に違いはあるが、平均すると8回程度ということになる。
議 長	他に何かあるか。
高橋委員 (代理：小熊氏)	事務局から地域に根ざした公共交通とするために、路線バス事業者など、関連部門と調整を図るとの説明があった。 今後、公共交通に関する計画を検討する際には、是非とも事前に調整を図り、検討を進めてほしいと思う。
事務局	事業者と調整を図りながら、検討を進めてまいりたい。
鈴木委員	現在の循環バスの運行については、利用者から改善を求める声がある。これらを受け止めて、今後どのような時間軸や内容で公共交通を考えていくか、それを議論することが大切である。 今後のスケジュールについて、どのように考えているか。
事務局	庁内の関係部署での検討、事業者との調整、地域公共交通会議での検討を踏まえ、平成27年3月末までに一定の方向性を出したいと考えている。

議 長	<p>他に何かあるか。</p> <p>ないようであれば、この件についての報告を終わりとさせていただく。</p>
議 長	<p>次第にはないが、その他として何かあるか。</p>
議 長	<p>ないようであれば、以上で本日の議事を終了とし、議長の職を解かせていただく。</p> <p>慎重審議いただき感謝する。</p>
司 会	<p>4 閉 会</p>